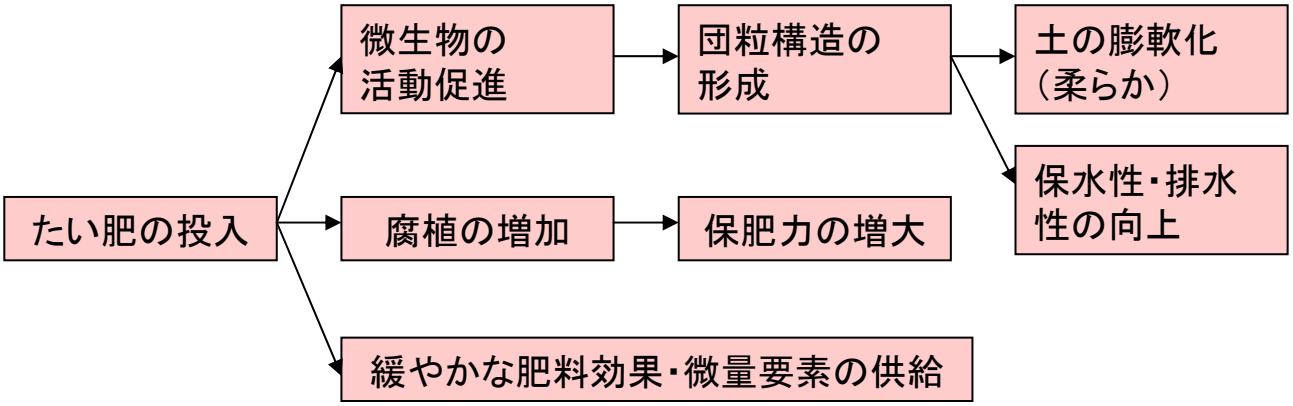
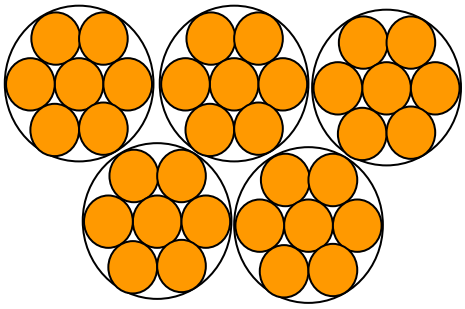
土づくりの基本技術

土づくりの基本となる三つの柱は、たい肥など有機物の投入、土壌診断による土壌改良資材の施用や肥料量の調節、深耕反転など耕うん方法の工夫です。



農作物が健全に生育するには、有機物投入による土の膨軟化、保肥力の増大、肥料成分の緩やかな供給などが必要です。有機物には、家畜排せつ物を原料とするたい肥や農産物残さなどの地域の有機資源が用いられます。

土壌の団粒構造



有機物の施用などによって土壌動物や微生物の活動が高まり、その分泌物が接着剤として働くことで土壌中に大小の孔隙が発達した構造を団粒構造といいます。

団粒が多いと、土にすき間が増え、通気性、透水性、保水性が良くなります。

土を深く耕して、根が伸びやすくしたり、たい肥散布や耕うん方法の工夫により、土壌団粒が増えるようにします。

土づくりの基本は、土を診て、土を知ることです。土壌診断を活用した「科学的な農業」により、肥料の量を調節します。